

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第2332号 (2025.7.27-2025.8.03)

- ◆ 参加者クイスケ、しもじょう、西沢葉火、ペろぼっこ、カオル
ル、しまねこくん、海月漂、ひいらぎ、空野つみき、菊池洋勝
山田真佐明、涼雨、宮坂愛哲、西脇祥貴、しんいち、何となく
短歌、笛地静恵、鈴木正巳、汐田大輝、しろとも、東こころ、
季川詩音、蔭一郎、夏風、岡村知昭、ななわい、もりまりこ、
涼、yuto, paddy, podium、よしひこ、水の眠り、ひいらぎ、まて
けい、古城えつ、神無、あで保名、もりや、snuddle、都まなつ、
非常ロドット、名犬、ぼち、オジサン、月波与生 (四三名)

◆ 川柳・俳句

粗相したしらす霊媒師の真夏 クイスケ
口輪をし児童相談所を賛美 クイスケ
バリアを張るとヒゲが剃れない しもじょう
ひまわりの当て所なき中島みゆき 西脇祥貴
少年のつむじで迷う黄金虫 蔭一郎
靴下をどちらから履く別世界 蔭一郎
幽霊に崩されてゆくかき氷 蔭一郎
山脈に宇治金時を奉る 蔭一郎
ざっくりとパンがあふれてくるメロン 蔭一郎
ぼんやりと蝮に間違えられている 蔭一郎
象と別れて消しゴムの木を探す 岡村知昭
てんと虫背中に一つ動く星 しまねこくん
トイレにはトイレのマークグラジオラス しまねこくん
知つてゐるメロンの味は皮の味 しまねこくん
向日葵に襟を付けたら会社員 しまねこくん

ぬるま湯にずつと浸してゐたメロン　しまねこくん
夕焼けの焼け損なひを拾ふ箸　しまねこくん
元号を三つ丸呑みして蝮　しまねこくん
パーティーの外はヘモグロビンの森　空野つみき
皮膚科でも歯科でも遠い白昼夢　空野つみき
シャーベット溶ける　声にしなくていい　空野つみき
人生のレモンサワーに映る雲　汐田大輝
高気圧からナルシズムの香り　汐田大輝
裸眼では右半分が玉子焼　汐田大輝
致死量になるさみしき　海月漂
ほほづゑをつかぬ手で汲む冷酒かな　カオルル
昼寝覚まだたましひの戻らざる　カオルル

*

老人が複数形の水を飲む　西沢葉火
本当に必要なものはバズらない　ペろぽっこ
月下美人見えぬ患者のコールかな　菊池洋勝
風にまた流されてゆく木曜日　涼閑
おっぱいの日も大人しく薬飲む　宮坂変哲
天国でローカル線を増やしたい　しんいち
夜の秋ドラマ佳境にスマホベル　鈴木正巳
まなうらにサンタクロス御一行　しろとも
手を繋ぐだれかの夫であるひとと　東ころ
石榴忌やあなたさきれいな顔ですね　笛地静恵
悔るな飲み込まれるぞ真つ白に　なさわご
油淋鶏　小蠅溺れて　御臨終　涼
秋めいて吾励むなりアマチュア無線の日　まどけい
眠いなか飲む珈琲や夏座敷　yuto_pachypodium
呑み込めば大暑の森の闇の中　よしびこ
セミ並に長生きできないハイポニキウム　神無
だい色に照らす光や田水張る　yuto_pachypodium
真理の核割れて飛び散り肉となる　あで保名

一丁目三番地冷奴 もりや

*

真夏 宇津井健の眼差しで過ぐす 月波与生
金魚売り残らずマネーロンダリング 月波与生

◆ 短歌

琥珀色のなにかをそつとそそがれて あなたの言葉がすき
になるあなたが言葉 もりまりこ

ゆくあてもなくてINNO入り浸り頼まれもせず「シャツた
たむ 水の眠り

*

朝露のいのち短く夜のことば舞いたる蜂に幽かに乗せて
ひいらぎ

やさしさに飼い慣らされて 僕たちは問いすら一人で立て
られなくて 何となく短歌

語り部の 肩に纏はる かすみ闇み霊おぼろや 影魂
染まむ 夏風

忘れたと思っていたが触れられて痛みは奥で息をしていた
古城えつ

三日月と味に余白のあるスイカ塩をかけるか君を食べるか
snuddle

ささぐれにちろちろうつるあのひとのうしろ姿はいつもさ
みしい 都まなつ

歌なぞり缶ビール手に夜散歩ふたりじゃなくてひとりだけ
れど 非常口ドット

◆詩・短文

屋根からコンビニを臨む

一匹は毛繕い

一匹は残飯をにらむ

西が光りながら

地平線にかくれる

闇が向こうで開眼する

鳥はねぐらへ

散っていく

そこかしこで暖を取る（山田真佐明）

世の中綺麗じゃないから。世の中綺麗じゃないからこそ、我々は綺麗なことを書きたいと思うわけで、世の中そんなに綺麗じゃない。だから綺麗事にすんな。（季川詩音）

◆作品評から

元号を三つ丸吞みして蝮　しまねこくん

〜元号ごと食べてしまった。それは歴史の改ざんかもしれません。過去を無かったことにしてしまったのかもしれない。（季川詩音）

自転車のサドルは海の日もあつい　蔭一郎

〜真夏に自転車に乗った人なら誰もが経験する（あの）サドルの熱さ。似た感覚は他になく真夏のサドルならではの体感なのだろう。何でもないけど特異な日常を切り取るのもまた川柳。（月波与生）

アサガオの蔓を正しく巻き直す　あきの　つき

〜ここでの正しさは自分にとっての正しさでありアサガ

才にとつてはなんの問題でもない。巻き直されたアサガオの将来はアサガオの問題であつて巻き直した人には問題ではない。正しさのゲンカイ。(月波与生)

金魚売り残らずマナーロンダリング 月波与生

「金魚を売っている人が、売り上げをマナーロンダリングしているのか。」「金魚そのものを不法に流してる姿をマナーロンダリングにたとえているのか。」など色々考えられて面白いです。怪しい夏を感じますね。(季川詩音)

天国でローカル線を増やしたい しんいち

「天国というのは宗教的な話であつて、「そんなものはない」という考えもあるのかもしれない。しかしながら、もしあるとすれば、仲の良かった人と会いたいと思うのかもしれないません。そんなときにローカル線があればさぞかし嬉しいでしょう。(季川詩音)

ぼんやりと蝮に間違えられている 蔭一郎

「ぼんやりとだからなかなか指摘しにくいんですよね。」「私、蝮じゃありませんよ。」って。「そんなのわかってるわよ。」って言われる気がしてなかなか言えないんですよ。(季川詩音)

人類にサヨナラをいうエベレスト 汐田大輝

「ある日突然「お前らもう降りろ!」とか怒つてそれから人類を拒絶してしまひそうなエベレスト。富士山もすでにその域かも知れない。世界中の山々が人類を拒絶する。」

(月波与生)

万札を崩す友だちが消える 鈴木雀

「万札を崩す」とは遣つて万札が無くなることである

が遣いすぎて小銭だけになったのだろうか。「友達のひとり諭吉が消えていく」という川柳はどこかにありそうだがこちらは本当の友だち（と思う）（月波与生）

老人が複数形の水を飲む 西沢葉火

〜英語の性質的に「水」の単語の扱いは厄介です。ただ、複数形とありますから、海や、河などの規模の大きい水域レベルの話なのかもしれません。それを飲むのですから、この老人の能力は凄まじいです。（季川詩音）

夕焼けの焼け損なひを拾ふ箸 しまねこくん

〜こちらが大腿骨ですね。（名犬 ぼち）

石榴忌やあなたきれいな顔ですね 笛地静恵

〜遺影に話しかけているのかもしれない。「よく喧嘩してたし、仲悪かったけれども、よくよく見たら綺麗な顔をしているじゃないの。」って。（季川詩音）

朝露のいのち短く夜のことば舞いたる蜂に幽かに乗せて
ひいらぎ

〜ハチって刺されると痛いけど綺麗なんですよね（オジサン）

真実のしめ鯖サロメを一新し クイスケ

〜クイスケは「サロメ」が付いた川柳を毎日投句している。「サロメ」自体はイメージが湧きにくい言葉なので他の14音字でいかに魅力的な嘘を付くかがポイントだ。

「しめ鯖」がいい。（月波与生）

ボディーランゲージ あなたは あなたは こころ空
野つみき

くボディーランゲージで始めてきあらの言葉の置き方が
刺激的。あなたはのい空白とこころの空白。勇気のある空
白。(月波与生)

サーカスのバスのタイヤの空気入れ(㊦) 西沢葉火

く者にしては正攻法の本格的川柳。

さっぱりわからん。特に(㊦)、どなたか読んでほしい。

(月波与生)

幽霊に崩されてゆくかき氷 蔭一郎

く最近、やたらと溶けるのがはやいと思っていたのです
が、あれは幽霊が崩していたのかもしれないね。(季川

詩音)